

苫小牧市総合教育会議議事録

会 議 名	令和８年度 第１回 苫小牧市総合教育会議
日 時	令和８年７月２４日 自 １３時００分 至 １４時１５分
場 所	市役所本庁舎５階第２応接室
出 席 者	市 長 金 澤 俊 教 育 長 山 本 俊 介 教 育 委 員 佐 藤 郁 子 教 育 委 員 齋 藤 智 子 教 育 委 員 岡 田 秀 樹 教 育 委 員 高 橋 憲 司
欠 席 者	
事 務 局	教 育 部 長 柴 田 健 太 郎 教 育 部 次 長 齋 藤 貴 志 教 育 部 次 長 山 地 吉 明 教 育 部 参 事 荒 関 基 高 教 育 部 参 事 伊 東 正 剛 総 合 政 策 部 政 策 推 進 室 長 茶 谷 英 史 政 策 推 進 課 長 細 野 森 未 来 創 造 戦 略 室 課 長 柊 田 崇 之 合同会社デロイトトーマツ 朝 日 裕 一 〃 星 野 孝 仁 〃 早 川 尊 朗 総 務 企 画 課 長 下 濱 辰 哉 総 務 企 画 課 長 補 佐 紺 世 知 彦 指 導 室 指 導 主 事 神 下 哲 明 総 務 企 画 課 主 査 岡 崎 一 樹 総 務 企 画 課 主 査 白 崎 美 緒 総 務 企 画 課 主 事 播 磨 知 世
協 議 事 項	(１) 苫小牧市未来まちづくり戦略に基づく教育プログラムについて (２) 学校の統廃合に関する地域説明会の結果について
会 議 の 経 過 概 要	別紙のとおり

1 開会の宣言 ・ ・ ・ 13時00分
(斎藤次長) それでは、定刻になりましたので、令和8年度 第1回苫小牧市総合教育会議を開催いたします。
これより議事に入りますが、苫小牧市総合教育会議設置要綱第4条により、議長に市長を充てることとしておりますので、ここからは市長に議長をお願いします。
(金澤市長) それでは、ここからは私が進行させていただきますので、よろしくお願いします。本日の議題は2件でございます。1件目は、苫小牧市未来まちづくり戦略に基づく教育プログラムについてでございます。もう1件は、7月に開催いたしました学校の統廃合に関する地域説明会の結果についてであり、いずれも重要な案件でありますので、しっかりと協議いただきたいと思います。
2 議題
(1) 苫小牧市未来まちづくり戦略に基づく教育プログラムについて
(金澤市長) それでは、議題(1)「苫小牧市未来まちづくり戦略に基づく教育プログラムについて」事務局から説明をお願いします。
(総務企画課長) 議題(1)「苫小牧市未来まちづくり戦略に基づく教育プログラムについて」についてご説明いたします。
本市では、まちの成長戦略を掲げた「都市再生コンセプトプラン」を具現化し、具体的な施策を導き出すことを目的に、令和7年4月に「苫小牧市未来まちづくり戦略」を策定しております。当該戦略で掲げる事業の中には、「次世代人材育成」として教育プログラムの開発が含まれており、現在受託事業者様の協力のもと、教育委員会を中心に業務を進めているところでございます。

現在推進している事業は「課題解決型プログラム」と「グローバル教育プログラム」の2本となります。どちらの事業も子ども達の視野を広げ、探求心や積極性を醸成していく内容であり、次世代を担う人材の育成に寄与するものであります。本事業の導入により良質な教育環境を構築していくことが、本市を選ばれるまちに育ていく土台となるものと考えております。
これより、各プログラムの詳細につきまして、受託事業者である合同会社デロイトトーマツの皆様よりご説明いただきます。デロイトトーマツの皆様、よろしくお願いいたします。
(デロイトトーマツ) デロイトトーマツと申します。よろしくお願いいたします。私共からは、課題解決型教育及びグローバル教育の進捗状況についてご説明いたします。
お手元にございます、資料「苫小牧市まちづくり戦略に基づく地方創成事業業務」をおめくりいただきます。はじめに、課題解決型教育です。先ほどご説明がございましたとおり、本事業ですが3か年の事業でございまして、今年度は2年目となっております。令和7年度から始まっておりますが、昨年度は課題解決型教育をどういった形で苫小牧市の中に導入していくかというところを、モデル校である明野中学校様と一緒に協議を進めてきました。今年度は、実際にプログラムを明野中学校の1年生を対象に実施しておりますので、詳細についてはこの後ご説明いたします。来年度は明野中学校様だけではなく、市内のほかの中学校様にも展開できるように努めてまいりたいと考えてございます。
3ページをご覧ください。今年度、明野中学校様で実施させていただいているプログラムの具体的なスケジュールと内容になっております。明野中学校様の1年生を対象に総合的な学習の時間を活用いたしまして、全14回のプログラムを準備しております。
4ページ目をご覧ください。全14回のプログラムですが、それぞれが個別に存在するものではなく14コマ全て連動しておりまして、生徒達が身近な地域の課題を自分達で考え、具体的に解決していくためのアプローチ案や、実際にまちの事業者にお

声をかけながら一緒に解決策を考えていく。最後にまちの大人達に対して、自分達が
考えた成果を発表する。そういった連動する機会を設けて検討を進めてきております。
5 ページ目ですが、生徒さんにお見せしているコンテンツのイメージになってござ
います。一概に課題解決型教育と言ってしまうと、中学1年生にとっては難易度が高
いものと想定されますので、学校の先生方と密に連携しながら中学1年生にとっても
わかりやすく、かつ学びになる内容になるように工夫をさせていただいております。
6 ページ目をご覧ください。今回のもう一つのポイントとしまして、生徒の皆様
は、一番初めに地域の課題となるようなテーマを6つ提示したうえで、自分が好きな
テーマから1つ選び、まちづくり推進を考えていくような形を取らせていただいております。
具体的には、テーマ1では子育て支援の充実、テーマ2では観光の振興、
テーマ3では市民スポーツの推進、テーマ4では国際・国内交流の推進、テーマ5で
はGX / 環境保護、テーマ6ではまちなかの活性化といった6つのテーマで、これら
は苫小牧市総合計画の中から、本事業の委託者様である苫小牧市未来創造戦略室様や
明野中学校様と一緒に検討しながら選定してきたものでございます。
7 ページ目は、実際にプログラムを実施している様子です。左側は1回目の写真で
すが、学校の授業の中で体育館や視聴覚室などに1学年の生徒皆さんにお集まりいた
だき、授業をさせていただいている様子でございます。右側に記載しておりますのは、
先ほどご説明いたしましたテーマですが、子ども達がより身近に捉えられるように少
し工夫をさせていただいております。そのほか、ただプログラムを行って終わりにす
るのではなく、最終的にどう学びに結び付いたかを、自分自身で把握していくための
自己評価もプログラムの事前事後で実施してきております。
8 ページは、各回、生徒に授業の中で作っていただくアウトプットのイメージとし
て掲載しております。例えばこちらのチームの生徒達は、自然環境をテーマとして掲
げており、その中でも自分達が追いかけてみたい課題は、苫小牧の自然の景観を整えてい
くといったところを中心に考えているというものになっております。特に、自分達が
思っていることだけを根拠に進めていくのではなく、実際に調べて、こういった事実

が分かったか、誰に話を聞けば景観を整えるという自分達の課題が解決できるのかな
どと一緒に考えていくといったところになってございます。具体的には9月以降にま
ちの事業者様にインタビューをし、それをどういった形で解決策を考えられるかとい
うところも、子ども達と一緒に考えて行きたいと考えております。
9ページ目ですが、今回は明野中学校1年生を対象にプログラムを実施しておりま
して、来年度以降もほかの学校様にも横展開を想定していると申し上げましたが、同
じように1年生に合わせて展開を検討しているところでございます。一方で、その
1年生の学びが基礎になりまして、2年生、3年生になった時に、職業体験や宿泊研
修、修学旅行、進路指導、自己実現の学習などに結びつけるような内容となるように、
学校の先生方と協議しながら作成を進めているところでございます。
10ページ目をご覧ください。従来の教育事業やイベントなどと本事業、本プログ
ラムを比較した時の、どういったところに差分優位性があるかを記載させていただ
いております。ポイントとなりますのは、従来のように単発であったり単軸であったり
しますと、子ども達はただ、楽しいという思いは残るかもしれませんが、それが自分
の能力として身につくかとなると、なかなか単発・単軸でのイベントは難しいと考
えております。特に今回は14コマという学校の貴重なお時間をいただいて連続した設
計として、実際に子ども達が自分の力になるようにプログラムを設計させていただ
いております。また、地域の方々も従来、プログラムを作り実施する側ですが、このプ
ログラムは生徒達と一緒に課題を考え、どういった形で解決できるかを一緒に考えて
いくものになるようにと思っております。最終的には子ども達がまちへ提案できる
といった形で、子ども達にとっても成功事例として持って帰っていただけるように努
めてございますので、ご協力いただけますと幸いです。課題解決型教育とい
たしましては以上となります。
(金澤市長) ありがとうございます。ただいまの課題解決型教育に対しまして、
ご意見、ご質問をお伺いしたいと思いますが、委員さんごとにお伺いできればと思
います。

(佐藤委員) 課題解決型教育という新しい知識を覚える学習以外に覚えていこうと
いう教育だと思いますが、今、高校や大学で取り入れているアントレプレナー教育の
入門と基礎として受け取らせていただきました。実際に自分が動く経験として覚えて
いくことだと思うのですが、起業家という言葉が先走りしているのが高校・大学の受
け止め方ですが、ビジネスに関係なく自分の考えを実際に実現するという、そのくら
いのレベルからお話されていると思いますので、あまり期待をかけすぎないような内
容であることを期待しております。もう一つ心配しておりますのが、保護者、ご家族
もそうですが、長い間「正しい答え」や「間違わないで」など、その道のある程度示
して教育をしてきたと思うのですが、アントレプレナーに関しては、間違っ、失敗
してそこから覚えるところがベースにあると思いますので、そのところを生徒だけで
はなく、保護者、ご家族の理解も必要です。そのような周知もしていただけるような
時間をプログラムの中に入れていただければ、もっと取り組みやすくなるのではない
かと思って伺っておりました。３年間の計画ですので、アントレプレナーの基礎がで
きてこそ２年、３年と肉付けができますので、非常に興味のある内容でございました。
(岡田委員) 課題解決型ということで、近年１８歳から成人となり、選挙権も１８
歳からということになりまして、義務教育の中でもこういった公的なことに関心を子
ども達に持っていただくということは、極めて大事なことで、公のことにも関心を持
つことへの教育が大事ではないかと考えております。教育行政執行方針の中で学校と
地域の連携・協働が書かれておりまして、地元企業との連携した課題解決型の教育プ
ログラムということになります。「いつでも誰とでも学べる環境づくり」「文化・芸
術がいつも身近にあるまちづくり」ということが教育行政執行方針のなかでも、うた
われております。資料６ページのテーマの検討ですが、このテーマの中には文化的な
ところ、歌が街中にあふれるまちづくりとか。まちを緑にする会に所属しております
が、例えば、街路樹に樹木名を表示するなどをして、樹木名をきっかけに自然と歌を
口ずさめるような、歌があふれるまちづくりにつながる仕組みづくりをしてはどうか
の考えがあったりと、テーマづくりについては、まちのビジョンという意味でも子ど

も達に期待するところが大きいので、こういったことを進めていただければと思います。
(齋藤委員) これまで、大人が環境を整えている社会の中で、子ども達が生活をしているという世の中だったと思います。これからは、子どもも社会に参加をして苦小牧市民の一員として、まちづくりをしていこうというモチベーションになる機会と思いました。私自身も青少年表彰や民生委員の事にも関わっていますが、民生委員さんは、お仕事をしながら地域のための活動をするのはハードルが高く、難しいことだと思います。子ども達が大きくなった後も大変だと思います。小学生、中学生のうちから自分がまちの一員である、まちづくりに取り組むチャンスがあれば、自分がそだったまちのために、自分達も力になりたいというモチベーションが大きくなるのかなと思います。また、苦小牧市は転勤族の方も多いです。転勤であっても縁があつて苦小牧に来てくださった方なので、苦小牧のまちづくりに参加をしていただいて、次のどこかのまちへ行かれた時も、苦小牧市の思いを持っていただける良い機会になるかと思います。まちづくりのことだけではなく、この取り組みをする中で良いと思ったのは、課題を解決するにあたって「すきま」を埋めるという作業がとても論理的だと思いました。まちづくりの問題だけではなく、子ども達が何か課題に直面した時に客観的に自分を見ることができる。問題があり、なりたい自分がある。その「すきま」を埋めるためにはどうしたら良いかという学びを、この活動を通して知という過程は、大人になってからも役立つと思いました。また、子ども達は一生懸命に取り組むと思いますが、大人側の受け入れと体制をしっかりと整えていただきたいと思っています。1校であれば受け入れることはできると思いますが、全ての中学校となると受け入れ先を見つけるのも大変になってくると思いますので、大人側の体制も盤石にして、このプロジェクトを成功させていただきたいと思います。
(高橋委員) 今回の課題解決型教育は、教育プログラムの開発が目的と伺っております。お聞きしたいことがございます。他都市でも実際に取り組んでいるとのことですが、苦小牧が今回目指す内容は理解できますが、その先について、ただプログラム

を作ることが目的なのか、実際にまちの事業として子ども達が考えたものを実施できるところまでを持っていく考えをお持ちで作られているのかをお聞きしたいと思います。
(デロイトトーマツ) そちらにつきましては、明野中学校の先生方ともお話をさせていただいております。子ども達がせっかく考えたものを、発表して終わりにするのはもったいないですし、子ども達にとっても、何かしらの形で身になった、大人達が動いた形の方が成功体験として残るのではないかということ、先生方からもうただいております。何かしらの形で発表の場や事業者様と連携を取りながら、どうすれば、子ども達が考えたものを実現できるかというところを含めて、検討してまいりたいと考えているところでございます。
(高橋委員) 具体的な事業として施策を作っていくのは難しいところがあるかと思っています。子ども達にとってはある程度の評価が必要と思っています。子ども達が考えた政策を市長に聞いてもらい、コメントをいただいたり、政策を地域企業に発信をして、企業がその事業を行っていただいたりと、取組について具体的に作っていただければと思います。また、実際に少子化が進み、子どもの人数が少なくなっている現状かつ、Y o u T u b eを含むインターネットで様々な情報を子ども達が得られる環境ですので、過度な期待、負荷をかけることは避けていただきたい半面、是が非や、間違っている・合っているなどに最終的に繋がらないように取組を進めていただきたいと思っています。
(山本教育長) 課題解決型プログラムについて、以前からデロイトトーマツ様から説明をお聞きしておりましたが、実際に進めていただいておりますが、中央教育審議会、令和12年度から段階的に導入が予定されている次期の学習指導要領の中で、探究学習、総合的な学習の時間について拡大されると言われております。目的としては、地域社会や企業と連携した、実際の社会に近い学びを子ども達に与えることが求められるという風に言われております。この学習時間では、教えられるという受け身ではなく、子ども達が自ら目標を立てて社会情勢の変化に関与していく力が重要と言われ

ております。今回、実施している明野中学校をモデルとした課題解決型プログラムに
ついては、次期学習指導要領とマッチした取組ではないかと考えております。モデル
校の検証によりまして、他の学校における学習の参考事例として根付くことを期待し
ております。一方で、探究学習の時間が拡大されるということで、学校の先生方は実
際に何をすべきなのかというところが悩ましいという声が聞こえてきております。そ
ういったことから、子ども達がやりがいを感じて、先行き不透明な時代を切り開いて
いく力を自ら養っていくためのこのプログラムが、お手本になればと思います。今回、
子ども達を取り掛かりやすいように、市長からのミッションということで、テーマを
あらかじめ提示して実施していただいておりますが、最終形としてはテーマ自体も自
分達が考えられる力がつくことが望ましいと考えていますので、まずはモデル校にお
ける取組が円滑に進むことを期待したいと思います。
(佐藤委員) 2点お伺いします。市長の特命を受けた時の1年生の印象と、6つの
テーマの中で人気があるもの、興味を持たれているものはどのあたりでしょうか。
(デロイトトーマツ) 市長からのミッションにつきましては、メッセージ動画をい
ただきまして、当日公開いたしました。すごく反響がありました。最初のタイミン
グで、重要な人からのミッションであり、次回公開しますという形で、一度市長とい
うことを伏せた状態で子ども達に伝えたのですが、その時から市長ではないか、とま
チョップだ、などの声がありました。何かしらの形で自分達も政策に携われるのだと
身に染みて感じてもらえたと思っております。その上で6つのテーマですが、今回あ
りがたいことに、どれも均等に選んでいただきました。強いて申し上げるなら、GX
や自然というところが一定の関心があるのかなと思います。
(佐藤委員) 6つもテーマがあると、担当している先生が準備をしたり、質問に答
えたりと負荷がかかるのではと思い伺いました。これから実務の中に入っていきます。
自己評価で様々な気づくことがあるかと思いますが、それも一つの大きな収穫になる
と思いますので、失敗を恐れなくてということと一緒に伝えていただければ、1年生
の基礎としては完成度が高まるのではないかと思います。

(金澤市長) ほかに何かございますか。
(一同「なし」の声)
(金澤市長) それでは、この件については終わりたいと思います。
(金澤市長) 次にグローバル教育について事務局からお願いします。
(総務企画課長) それでは、引き続きグローバル教育について説明させていただきます。デロイトトーマツ様よりご説明いただきます。よろしくお願いします。
(デロイトトーマツ) グローバル教育について説明させていただきます。
12ページ目をご覧ください。本施策ですが、英語や多文化に関わる時間をより多く費やすことのできるグローバル教育プログラムを開発いたしまして、3年間で公教育へ展開することで、市内におけるグローバル人材の育成や排出を目指すことを目的としております。英語を学ぶこと自体も目的ではありますが、それ以外にも外国語や異文化に触れる機会を増やししながら、将来グローバルに活躍できる人材を育成することを目指していければと考えております。最終目標として目指すグローバル人材を明確にし、学校現場で実施できるプログラムとして定着させ、市内全体に展開していくことを目標としております。今年度はその第一歩としまして、モデル校で実証を行い、学校の先生方、ALTの皆様と一緒に実践を積み重ねながら、現場で運用できるプログラムや教材を作り上げていきたいと考えております。来年度以降ですが、その成果をもとに市内の学校へ段階的に展開し、先生方やALTの皆様が継続して活用できる仕組みづくりを進めていく予定でございます。
13ページ目をご覧ください。小学校から中学校までの学びのイメージを展開させていただきます。小学校の低学年では、外国語や異文化に触れる、楽しむことを重視し、高学年になるにつれて伝える、基礎を学ぶと段階的に発展できればと考えてございます。中学生になりましたら、自分の考えを英語で伝えたり、異文化について

て理解を深めたりする力を育成していければと思います。資料の下段にあります、隙間時間プログラムを重要な項目として考えております。通常の英語の授業だけではし にくい、実際に英語を使う機会を朝学習や休み時間、放課後など学校生活の中に取り入れることで、実際に英語に親しむ時間を増やしていければと考えております。授業を置き換えるのではなく、授業を補完しながら、子ども達が自然に外国語に触れる機会を増やすことがこのプログラムの大きな特徴と考えております。
14ページ目です。実証の方法として2つのパターンを検討しております。1つ目が、単発の学習プログラムを単軸で実施するもの。2つ目が、学校生活での隙間時間を活用した継続的な取組としております。本事業ではパターン2を中心に進めていきたいと考えております。理由としましては、普段の学校生活の中で、繰り返し外国語に触れる機会を設けることで、コミュニケーション能力や主体性、異文化理解をより自然に育むことが期待できると考えております。今後は、モデル校の先生方と相談しながら学校の実情に合わせたプログラムを展開できればと考えております。
15ページ目をご覧ください。今年度のモデル校として、拓勇小学校とすることが決定しております。拓勇小学校様では、昨年度からALTを活用したコミュニケーションプログラムなど、先進的な実践が行われていると伺っております。ALTと少人数で会話するなど、子ども達が主体的に英語を使う取組が進められています。こうした実践は、本事業が目指す方向性と親和性がとても高いと考えております。今年度は既存の取組を尊重しながら、隙間時間プログラムなども組み合わせ、より効果的なモデルを先生方と一緒に作り上げたいと考えております。
16ページ目です。こちらの資料は、先日拓勇小学校様へ訪問した際に、先生方への説明資料として使用した資料となっております。拓勇小学校の教員の集会に我々も参加させていただきまして、取組について説明させていただきました。まずは今年度、拓勇小学校様で実践させていただき、その成果を整理していきたいと考えております。その内容を事例集や研修資料としてまとめ、市内の先生方へ共有することで、他校でも導入しやすい形へ展開できればと考えております。また、学校へ新たな負担をかけ

るのではなく、モデル校で得られた視点をわかりやすく整理し、市内全体への財産として活用していくことを目指しております。
17ページ目です。こちらは本事業が目指す力を整理しております。聞く力、読む力、話す力、書く力はとても重要と考えております。一方で、社会はそれだけではなく、多様な文化や価値観を理解する力、自ら挑戦していく主体性といった力も求められると考えております。本事業では、英語学習を目的としつつ、英語を通して主体性や異文化の理解を育むことを重要視していけたらと思っております。
18ページ目です。実際のプログラム設計について記載をしております。本事業では、コミュニケーション能力、学び続ける主体性、異文化理解の3つの柱としてプログラム設計しております。それぞれの活動は、学校で活用しております CAN-DO リストや授業内容と関連付けながら実施できればと考えております。普段の授業を補完し、実践する学びへ繋げるプログラムとして進めていきたいと考えております。
19ページ目です。本事業ですが、教育委員会さん、苫小牧市さん、学校現場の皆さんと連携しながら進めていきたいと考えております。現場の先生方の声を伺いながら、学校にとって実践しやすく、市内で継続しやすいプログラムになりますよう取り組んでいければと考えております。
(金澤市長) それでは、グローバル教育について、ご意見、ご質問を伺いたと思います。
(佐藤委員) 授業と連動したコミュニケーションプログラムということで、安心して授業を受けられるのではないかと印象を持ちました。英語を勉強していくと、新しい世界が広がることを覚える良い機会になるかと思います。外国語は英語だけではなく、ほかの言語にも興味を持つようになっていくと思いますが、日本語力も付いていくことで、一緒に言語の力も付いていく良い機会になっていくだろうと同時に、勉強する児童の温度差も生まれてくるだろうなと思っています。今は、学校や塾ではなくても語学は勉強できる環境にありますので、その環境の整い方で覚えていく差が出てくるのではないかと気になっております。非常に意識が高く、学力を求めている

プログラムですので、勉強していくには、体力も必要だということも教えていただき、
元気に興味を持って自分の世界を広げていくような時間になれば、イングリッシュ
ルームも活発になるのではないかと思います。ただ、英語に関して地域差や家庭の考
え方、英語だけではなく、語学を勉強できる環境の差が出てくると思いますので、そ
このバランスが難しいのかなと思いました。
(齋藤委員) 言葉を学ぶということは、文化を学ぶことでもあるので、どうしても
私達は子どもに英語を話せるようになってほしい、テストでいい点数を取ってほしい
とか、そういったところに着眼しがちですが、言葉は文化なので、日本以外の文化を
このようなアプローチで学ぶ機会が子ども達に与えられるということは、良いと思い
ます。今まで授業というアプローチは苦しかった子達も、このプログラムを通して、
英語や海外の文化をもって身近に感じられる良い機会になると思います。朝や休み時
間、放課後を使ってということですが、その時間に、このプログラムを通して英語に
触れる機会をとということですよね。ということは、休み時間に本を読みたい子もいる
と思いますが、子ども達が選択をすることができるのでしょうか。
(デロイトトーマツ) 拓勇小学校様と実際にどんなことを行っていくかというのは
詰められていない中ではありますが、生徒の皆様にも選択肢というものはあってほし
いのではないかと思います。先程、差が出てしまうというお話もありましたので、そ
のあたりは、積極的に参加をしてくれる生徒ばかり構うのではなく、参加したいけど
物怖じして行けない生徒に関しては、学校の先生方と上手く連携しながら、バランス
を見ていくのがよろしいかと思っております。
(齋藤委員) 機会を与えるということが大切だと思いますので、それを選ぶのは子
ども達に任せたいと私は思います。市教委として、こういった機会を与えるのは子ど
も達にとって良い機会になると私は感じました。
(岡田委員) いままでは、授業の中での英語、外国語ということで、どうしても生
徒は構えてしまうことがあるかと思いますが、この隙間時間の中、自然な生活の中で
英語を学ぶのは、自然に生徒達が英語に親しんでいくのかなと。いままでとは違った

発想で、大変期待しております。
(高橋委員) 目的はグローバル人材の育成ですが、18ページにあるように、異文化理解など日本以外の方々に興味関心を持たないと、言語の習得に結びつかない気がします。せっかくプログラムを組むのでしたら、英語はあくまでも手段と思っていますので、興味関心を持たせるところからスタートしていき、その手段は後からついてくる気がします。色々な考え方はあるかと思いますが、普段見聞きしないことを見聞きすることで、子ども達は興味関心を示されると思いますので、そこを基軸にしていくのも一つの考え方だと思います。英語は日本にとって世界共通という認識がありますが、英語でも色々な英語があるので、その理解や、日本人は英語を話すのが恥ずかしいという気持ちがありますが、アメリカでは、日本人の英語はカッコいいということをして7割の人が思っているとも言われています。そういったことも視点を変えて理解をしていただければ、話すことに関して恥じらいを持たずにいれる環境を作れるかと思います。このような違うアプローチを、このグローバル人材の育成の取組に繋げてはどうかと考えていました。
(山本教育長) 苫小牧でも外国人労働者が多く、小学校にもその労働者の子どもが通っていることが増えてきました。珍しくなくなってきたなど。当然、日本語を話せない子ども達なので、関係する学校の校長先生に子ども達の様子を伺ったところ、子ども達は仲良くやっています。言葉は通じないけど、仲良くできる。異文化の理解にも順応性があり、対応できる、子どもらしい能力があると改めて感じております。そういう意味では、小学生のうちから英語や異文化に接するということは、子ども達の将来を考えると、苫小牧も外国人労働者も増えてきて、異文化と接する機会が子ども達にも増えてきていることを考えると、このようなプログラムを行ってみるのは非常にタイミングが良いのではないかと思います。5月末に、ネピアアイスアリーナでイングリッシュカフェを行いました。大盛況でした。場所が少し狭いかなと思うくらい子ども達が来てくれて、市教委のALTも多く来てくれて、外国人と臆することなく接する様子を見ていると、非常に頼もしいなと感じました。このような取組

を行うことで、グローバル人材を育てていくということは、大いに期待したと思っております。少し気になったのが、うろ覚えですが、小学校で英語教育を受けて、中学に入ると、文法が出てきて、教科書が難しすぎて中１になって英語が嫌いになったという新聞記事を見ました。苫小牧において、小学校からプログラムを導入して取り組んでいく上で、小学と中学との壁について連携が上手くいくように、市教委としても、小学校と中学校との英語教育の繋がりについてどうするかを考えていかなければならないと思っていますところでは。
（金澤市長） 今のご意見をふまえて、苫小牧市の将来を担う人材育成のため、引き続き事務局の皆様はよろしくお願いします。
（２） 学校の統廃合に関する地域説明会の結果について
（金澤市長） 次に、議題２「学校の統廃合に関する地域説明会の結果について」事務局から説明をお願いします。
（総務企画課長） 本年２月に市教委が策定した「苫小牧市立学校再編ビジョン（素案）」について、市民の皆様に広く市教委の考え方を知っていただくため、説明会を実施いたしましたので、その結果を報告いたします。
２ページをご覧ください。説明会は、７月１日から２１日にかけて、閉校予定としている学校単位で、全１０回開催いたしました。参加人数は記載のとおり、合計
１７９人の参加で、最も参加人数が多かったのは、７月１０日に開催した開成中学校の４３人でした。
３ページをご覧ください。説明会では、冒頭、教育長からのあいさつ後、苫小牧市立学校再編ビジョン（素案）の全体説明、その後、学校別の資料に沿って、個別の学校の状況を具体的に説明した後、質疑応答を行いました。
４ページから１１ページは、当日説明した学校別の資料で、第１回目の凌雲中学校の資料について、参考としてお示ししております。４ページでは、学校のこれまでの

歩みについて簡単に説明し、５ページでは、生徒数と学級数、築年数の推移を、現在
と計画終了年度である１０年後の数値を示し、６ページでは、ブロック内の学校の統
合前後の生徒数と学級数の推計を説明しました。７ページでは、閉校となる学校や、
統合先の学校周辺の地理的状況や通学などの課題について、地図を用いて説明しまし
た。８ページでは、本ビジョンの方針として、小規模校を近隣の学校と統合すること
で、適正規模校とすることを基本的な方針としておりますが、小規模校の良さについ
てのご意見をこれまでもいただいていたので、その良さと課題双方に触れつつ、適正
規模にすることで、その課題を解決していきたいという、市教委の考え方を説明しま
した。９ページでは、地域の方々の関心も高いと思われる、校舎や跡地の利活用につ
いて、改めて基本的な考え方と、今後の進め方について説明しました。１０ページで
は、その他の質問として、地域説明会開催前に、学校運営協議会などからいただいた
ご意見と、その回答について説明しました。１１ページでは、学校の再編は、子ども
たちにより良い教育環境を整備することが目的ではありますが、市議会等においても、
コスト面の説明をする必要があるのではとのご意見もいただいておりますので、参
考として、再編した場合としない場合の費用推移のモデルをご説明しました。以上が、
地域説明会で用いた資料でございます。
１２ページをご覧ください。ここからは、説明会当日の質疑応答から、主な意見を
いくつかご紹介します。まず、学校の統廃合はコスト削減が目的ではないか。という
質問がございましたが、先ほどの説明したとおり、子どもたちにより良い教育環境を
整備することが目的であることを説明しております。
１３ページをご覧ください。統合によって教育環境が変わることに関していくつか
質問がございました。中学校３年生での統合は受験への影響があるのではないか。中
学校の途中で統合になる場合、制服を２回買うのか。閉校になる学校の教員は統合先
にいくのか。という質問がございましたが、これらについては、子どもたちに影響が
ないよう、教員の配置も含めて十分に配慮しながら進める旨を回答しております。次
に、人数が増えるといじめが増えるのではないか。という質問がございましたが、こ

れについては、クラス替えができる環境にすることで、トラブルやいじめがあった際、
クラス替えを契機に、人間関係をリセットして、安心して通学できるというメリット
もある。という旨を回答しております。
14ページをご覧ください。次に、安全な通学に関して、2kmがスクールバスの
対象とあったが、1.9kmの場合は対象にならないのか。という質問がございました
たが、これについては、具体的な地域プランを策定する中で決定し、柔軟に対応した
い。という旨を回答しております。次に、大きい道路を子どもたちが渡るのは心配だ。
という質問がございましたが、これについては、再編に伴い通学路を見直す中で、関
係部署と連携しながら、交通指導員の配置などを検討していきたい、という旨を回答
しております。
15ページをご覧ください。次に、まちづくりに関して、人口減少・空き家問題な
どと並行して、まちづくりの観点から市長部局と連携をして進めるべき。という質問
がございましたが、これについては、学校の再編は、クラス替えができない状況の解
消など、子ども達のより望ましい教育環境の整備が目的ではある一方、まちづくりの
観点から考えることも重要と考え、今後の地域プランの策定において、跡地の利活用
を含めて検討していきたい。という旨を回答しております。
16ページをご覧ください。次に、ビジョンの成案化までのプロセスに関して、説
明会を複数回開催してほしい。という質問がございましたが、これについては、必要
に応じて複数回行うことも考えているので、十分に皆さんの意見を聞いていきたい。
という旨を回答しております。なお、さらに詳細な質疑応答の内容は、A3横版の資
料を配布しておりますので、後ほどご覧いただきたいと思います。
17ページをご覧ください。説明会での質疑応答で見えてきた、検討が必要な課題
をいくつかご紹介します。まず、清水小学校、開成中学校の閉校について、地域住民
の皆様から、小規模校の良さを生かしながらこれまでやってきた。中学校では切磋琢磨
する環境が必要だが、小学校は小さいほうが良い。1学級でも問題はない。統合あり
きではないのか。勇払のように残す方向で検討してほしい。特認校としての存続を

検討してほしい。などのご意見をいただきました。
18ページをご覧ください。日新小学校での説明会で、宮の森町在住の方からは、泉野小学校に校区変更となるが、小規模校であり適正規模の学校に通う選択肢がない。スクールバスの対象エリアであれば、他の友達と一緒に北星小学校に進学させたい。とのご意見をいただきました。次の19ページが位置関係を示した参考資料です。左側の赤く色づけた地域が宮の森町で、距離も考慮して、泉野小の校区とした案を示しております。
20ページをご覧ください。豊川小学校での説明会で、桜木町在住の方からは、小中連携を推進するための校区再編に理解する一方、隣の校区の北光小、啓北中に通うことはできないか。再編により、川の向こうに近い啓北中があるのに、遠い明倫中に通わなければならない、通学時間の差は1日1時間もある。とのご意見をいただきました。再び19ページに戻っていただきたいのですが、中央の薄い青で色付けした地域に、意見された方が居住している状況となります。
21ページをご覧ください。美園小学校での説明会で、新明町在住の方からは、小規模校の明野小への統合となり、少数派が切り捨てられる印象がある、適正規模の緑小へ行けるようにすべきでは。また、明野中学校も統合により閉校となるため統合を2回経験することとなり、負担が大きい。とのご意見をいただきました。次の22ページが位置関係を示した参考資料です。薄い紫で色づけた地域が新明町で、明野小への通学となる案を示しております。
これらの課題については、地域や保護者の切実な意見でもあり、十分に考慮すべき部分もあることから、今後、さらなる検討を行い、ビジョンへの反映の可否について判断してまいりたいと考えております。
23ページをご覧ください。今後の進め方ですが、今回の説明会に参加できなかった方もいらっしゃると思いますので、説明会の内容の動画を作成し、ホームページ等で視聴できるようにしたいと考えております。なお、動画を視聴した方からの意見をいただくことができるようなフォームも設置する予定です。そのほか、質疑応答

のなかでご意見がありました、教職員へのアンケートも実施したいと考えています。
また、個別に説明を聞きたいという方々へ、この度の再編や学校規模適正化に関する出前講座メニューという形でも対応したいと考えております。また、あなたの街でミーティングにおいても、市長のご意向でもありますが、学校再編についての周知を図りたいと考えております。最後に、説明会での意見を踏まえたビジョンの修正案の説明については今後検討してまいりたいと考えております。これらを通して、ビジョンの策定に向けてさらなる議論の深化につなげてまいります。
(金澤市長) それでは、この件に関し、ご意見ご質問等を伺いたいと思います。
(山本教育長) 私も10地区全ての地域説明会に参加してきました。平日の午後6時から開催ということもありまして、なかなか出席者が多かったと言える状況ではないと思いました。10年くらい先を見越してのスケジュールになっていますので、もしかすると、小学校・中学校に在学のお子様をお持ちの保護者の方々は、自分の子ども達には影響がないということで、関心があまりお持ちでない方も多かった気がしています。それでも全地区で150人程度にご参加いただきまして、こういった生の声、様々なご意見をいただきまして、課題が多いことも再認識することができ、有意義であったと思っております。感触的には、人口減少と少子化という時代を迎えて、学校の統廃合もやむを得ないというところは、大体ご理解いただけている気がしますが、今、事務局から話があった通り、通学距離が遠くなり、スクールバスが確保できるかや、校区割の話など色々な課題があると再認識させていただきました。ただ、市教委としては、子ども達のより良い教育環境というのは、せめてクラス替えができる学校規模というのが必要ではないかと考えておりまして、このまま小規模化していく学校を維持していくことになると、老朽化が進んでいる学校も多く、改修をどうしていくかという財政的な面もあります。今、教員不足という教員のなり手がどんどん少なくなってきていて、これだけの数の学校を維持していくのは難しくなるということが容易に予想できますので、まずは子ども達のより良い教育環境の整備と学校数を維持していくことは、恐らく非常に難しくなっていくところを、どのようにご理解いただ

けるか、どのような説明をしていくか、というのがこれからの課題になるかと思いま
す。まずは、説明会をひと通り終えたところで、説明会に参加できていない方々は非
常に多いわけで、動画をホームページにアップして、いつでもご視聴いただけるよう
にするなど手立てをしながら、合意形成を図っていきたいと思います。
(佐藤委員) 資料を見ると、保護者の方よりは地域の住民の方のほうが、どちらか
というと批判的な意見が多いように見えます。自分達のエリアを守ろうということが
よく伝わってきますが、その地域住民の方達は家族の中に該当するお子さんがい
らっしゃるなど、そういった方なのでしょうか。
(山本教育長) おそらく町内会の方が多いと思います。
(佐藤委員) 地域ごとの教育がはっきりしていくと思うのですが、資料に特認校と
ありましたが、清水小学校や開成中学校の地区は、地域に強い愛着を持っているところ
なので、できれば色々な人がそこに来たほうがいいと思っています。例えば、早来
学園が、非常に入学者が増えたという地域の関わりの中でありますので、地域を大事
にしながら、学校の人数が増えるということも考えていけば、地域住民の方も納得し
てくださることが多いかなと思いました。あとは、20人クラスにしてはどうかとか、
財政目的ではないかなど、本来の目的からずれた意見もありますので、よく理解して
もらうことも大切なことだろうな、と思うのと、できれば自分の家族が該当するよう
な方達にしっかり情報を届けたい。あまり誤解されないのかなと思いました。
(齋藤委員) 保護者の方は、統廃合が終わる頃には、自分の子どもは卒業されてい
るという方も多いと思います。保護者の方の意見もありましたが、やはり地域住民の
思いがとても強いと思いました。地域にとって学校はシンボルであり、地域で子ども
達を育てていこうという意識、思いがあるのは、とてもありがたいことであると思い
ます。とは言え、子ども達はクラス替えができない状況で、限られた人間関係の中で
学校生活を送るということは、メリットもありますが、デメリットも大きいので、そ
こは丁寧に説明しなければならないと思います。地域住民の方の地域で学校を支えて
きたというパッションを、違った形で苫小牧市のために力を貸してくれるような機会、

発揮できる場面があるといいなと思いました。通学路のことに関しては、なるほどな、 と思うものもありましたので、今後これを検討して、市教委としてどれが最善かを決 めていただければと思います。
（岡田委員） 学校の統廃合は、人口減少という中では避けては通れないことかと思 っています。子ども達が色んな友達と過ごす、競い合って学校生活を送ることは大 切なことかと思ひます。ただ、それに伴い、学校が遠くなることや、避難所になっ ているなど防災の関係もありますので、地域の方や保護者の方、生徒自身が不安のない ようにフォローしていくのが大事だと思います。
（高橋委員） 経験上ですが、私も東小学校のPTAだった時に、学校の場所を旭町 から末広町にする時に、反対とは言いませんが懸念をしますみたいなことを言った記 憶があります。それはやはり、そこにある学校に対して思いが強いと思ひます。実際 に子どもに聞くと、少し遠くなるけど、大丈夫。とあっさりとした回答をいただきま した。子ども達のために何ができるかを考えると、閉校した後の施設利用などを、ど う考えるかをしっかりと市民に説明することによって、恐らくほぼ解決するのではな いかと思っています。このまま進めていただければと思います。
（佐藤委員） この統廃合には直接関係ないのですが、年間100人苦小牧から他に 進学しているということで危機感を覚えた市内の公立高校の先生が、説明会を開いた と思ひますが、その結果がどうなのかということを知りたく伺ひますが、統廃合の中 で将来的な進学のことについての質問はあったのでしょうか。
（山本教育長） 特に無かったです。
（佐藤委員） 学校は地域の拠点だから大事にしようというのが新聞にもありました ので、アピールするには良い時期かと思ひましたので、もう少し統廃合のことを 行っているという情報を流すと、より活発な意見を聞くことができるのではないかと 思ひました。
（山本教育長） 予想はしていたのですが、学校が無くなってしまうと、若い人達が 少なくなってしまうというご意見もありました。自然の流れでそうになってしまう可能

性が高く、そういった意味では、地域がさみしくなっていくところが、なかなか賛成
と言えないところがある気がします。市教委としても中学校区でコミスクを組織して
いただいて、学校のために色々ご協力いただいてきた中での閉校ということになりま
すので、急に言われてもというところもあるかと思います。これまでの中学校区のコ
ミュニティが統廃合によって少なくなりますので、もう少し広範囲で学校を支えてい
ただくような、新たな地域コミュニティの形成なども考えていく必要があると感じて
います。
（金澤市長） それぞれ皆様からご意見、ご質問、大変貴重な声をいただきました。
事務局である市教委の皆さんも、時間をかけて地域説明会を開かれておりますし、地
域によっては、説明会を数回行ったほうが良い所もあろうかと思いますが、あくま
でも案で決定ではないという点を全面に押し出していただいておりますので、大変な
作業かと思いますが、市民と向き合って進めていただきたいと思いますので、今後と
もよろしくお願いします。今出ました意見につきましては、今後の計画あるいは取組
に随時反映いただければと思います。
以上で、本日の議題は全て終了いたしました。関連なご意見、ありがとうございます。
した。今後の苫小牧市の教育の発展のため、出させていたきたいと思いますので、
御礼申し上げます、事務局にお戻ししたいと思います。
3 閉会の宣言 ・ ・ ・ 1 4 時 1 5 分